2018年度

愛知県芸術劇場 舞台芸術人材養成プログラム 報告書

主催:愛知県芸術劇場（公益財団法人愛知県文化振興事業団）
助成:文化庁文化芸術振興費補助金（劇場･音楽堂等機能強化推進事業）｜独立行政法人日本芸術文化振興会
「劇場職員セミナー」共同主催:公益財団法人名古屋市文化振興事業団、愛知県、名古屋市
助成:一般財団法人地域創造

2018年度 愛知県芸術劇場 舞台芸術人材養成プログラム報告書

発行:愛知県芸術劇場（公益財団法人愛知県文化振興事業団）
〒461-8525 愛知県名古屋市東区東桜一丁目13番2号
TEL:052-971-5609
URL:https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/
印刷:株式会社日総研印刷
発行日:2019年3月

はじめに

愛知県芸術劇場は年間を通じてさまざまな人材養成事業を実施しています。

2018年度も引き続き、劇場スタッフ・学生等を対象とした「舞台芸術人材養成ラボ」とダンサーや劇作家等のアーティストを対象にした「アーティスト人材養成事業」を柱に、舞台芸術の作り手や担い手を育成するためのプログラムを開催し、拡充を図りました。

スキルアップと交流を主な目的に2015年度から開始した本プログラムには、これまでにのべ2,500名以上が参加しています。個々人がスキルアップを図り、更にそれが地域全体に拡大することで、豊かな芸術環境の整備につながると考えております。

今後も本プログラムの充実と継続を図りながら、中部圏における舞台芸術の活性化および専門人材の養成に取り組んでまいります。

愛知県芸術劇場
館長 丹羽 康雄

連 携
プロジェクトとは…

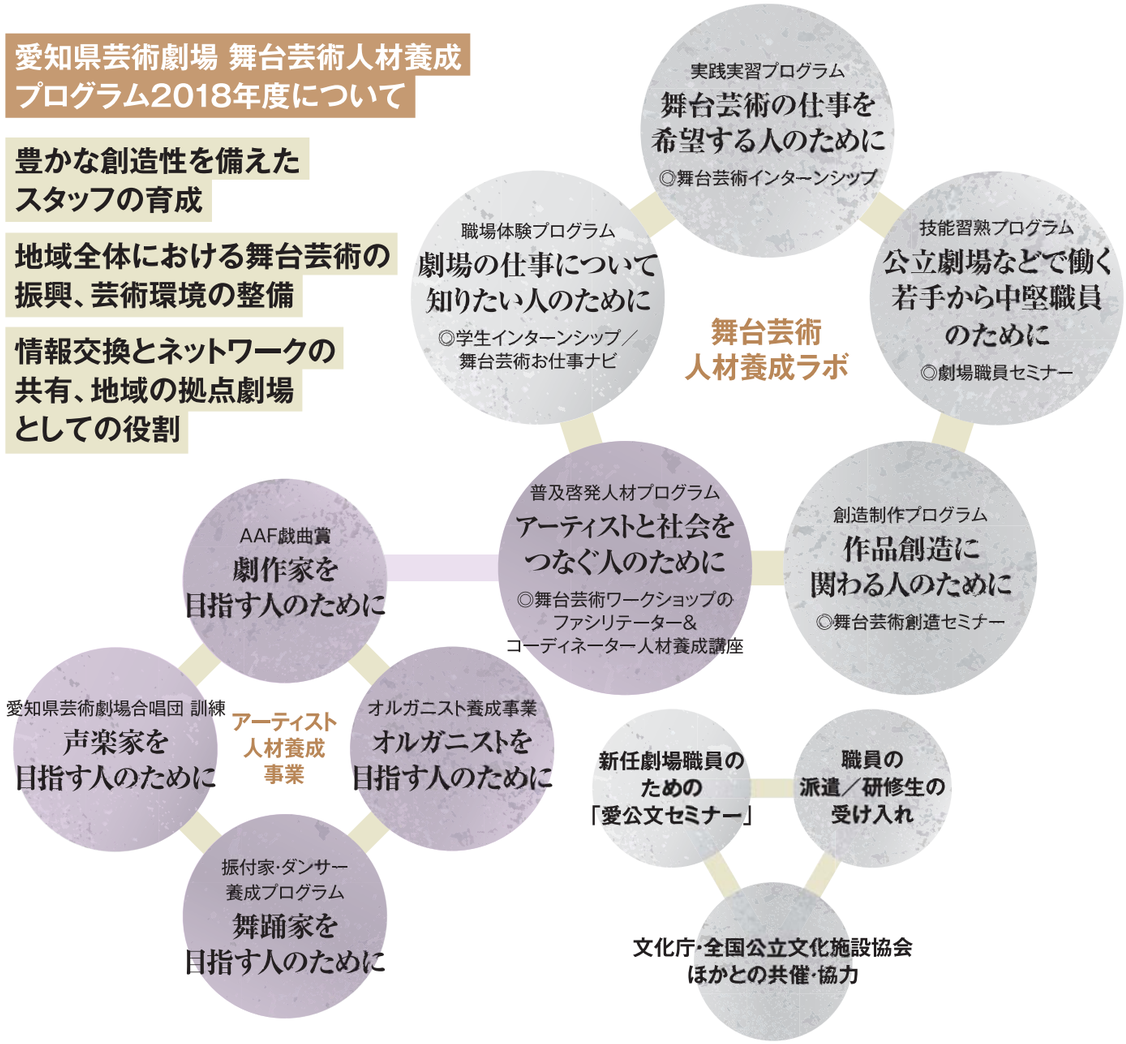
愛知県芸術劇場では、国内の劇場と連携し、共同制作によるグランドオペラの制作や、当劇場プロデュースによるダンスや演劇作品の国内ツアーを行なっています。また、県内の劇場と連携し、海外から招へいしたカンパニーの県内市町村ツアー、新任の劇場職員を対象としたセミナーを実施するなど、圏域全体の芸術文化の振興を図っています。そのほか、当劇場が位置する名古屋の久屋（栄北）エリアの活性化を図るために、近隣の商業施設等と月1回の会議への参加やアートの力で賑わいを創出するミニフェスティバル「久屋ぐるっとアート」を開催するなど、情報交換や事業連携を行なっています。

愛知県芸術劇場 舞台芸術人材養成プログラム2018年度について

豊かな創造性を備えたスタッフの育成

地域全体における舞台芸術の振興、芸術環境の整備

情報交換とネットワークの共有、地域の拠点劇場としての役割



平成30(2018)年度
舞台芸術人材養成プログラム実績
期間:2018年4月―2019年3月

舞台芸術人材養成ラボ

プログラム／コース		場所	日程	期間	参加者（人）	詳細ページ
実践実習プログラム 舞台芸術インターンシップ	企画制作コース（1年目）	小ホール ほか	6~3月	46日	4	→04
	舞台技術コース（1年目）				0	
	企画制作コース（2年目）			57日	2	
	舞台技術コース（2年目）				1	
職場体験プログラム	学生インターン	小ホール ほか	7/30~8/1	3日	23	→06
	お仕事ナビ	アートスペースE·F	8/11	1日	42	
技能習熟プログラム 劇場職員セミナー	〈講演〉地方文化芸術推進基本計画を具体的に考える	アートスペースA~H ほか	1/16~18	3日	73	→07
	〈講座〉プロジェクターの基礎講座				40	
	〈パネルディスカッション〉学校が劇場に求めていること				71	
	〈講座〉便利かリスクか? 音響·照明機器の遠隔操作				29	
	〈講座〉事例研究と質疑応答「広報なんでも相談室」				67	
	〈フリーディスカッション〉第1回ナゴヤアーツのれん会				11	
	〈講座〉ヘルメットと墜落制止器具で労働災害防止				18	
	〈講座〉大規模改修に挑む! ～事例から学ぶ改修工事				40	
	〈パネルディスカッション〉事例から学ぶ舞台のトラブル対応				22	
	〈実習〉テキストライティング				34	
	〈パネルディスカッション〉チラシのテキストをデザインする				66	
	〈講義〉劇場でのワークショップの目的·やり方を見つめ直す				45	
	〈実習〉すべての人が参加できる鑑賞環境づくり 肢体、視覚に障がいをもつお客様対応				42	
	〈講座〉障がい×パフォーミングアーツの可能性 企画制作はじめの一歩				28	
	〈パネルディスカッション〉事例から学ぶ貸館·設備トラブル				33	
	〈講座〉未就学児を対象とした事業の基本ともうひと工夫				32	
	〈講演〉お客様は神様か				57	
	〈番外ゼミ〉トラブルに沈む… ～事例から笑う覆面トーク～				31	
	〈番外ゼミ〉劇場職員と子育て				15	
創造制作プログラム	「舞台芸術における映像 マルチプルな映像の手法」レクチャー	アートスペースA	9/16	1日	62	→12
	「舞台芸術における映像 マルチプルな映像の手法」ワークショップ	小ホール	2/26,27	2日	20	
普及啓発人材プログラム	舞台芸術ワークショップのファシリテーター&コーディネーター人材養成講座	アートスペースA	1/26	1日	26	→13

アーティスト人材養成事業

第18回AAF戯曲賞募集·選考·最終審査会	小ホール ほか	6~1月	約7か月	109※	→14
愛知県芸術劇場合唱団 フランス語ディクション訓練	アートスペースA	1/14, 2/10, 3/3	3日	43	
集まれ、未来のオルガニスト	コンサートホール	1~3月	3か月	6	
岡登志子ダンス·ワークショップ in 愛知	小ホール	4/5	1日	10	
フォーサイスのメソッドに基づくコンテンポラリー·ダンス·ワークショップ	黄金4422BLDG.	6/16,17	2日	12	
ダンス·セレクション『踊る』『語る』『集う』	小ホール、黄金4422BLDG.	10/5~8	4日	151	
湯浅永麻によるインプロビゼーションクラス	小ホール	12/10	1日	4	
小尻健太によるクリスタル·バイトのレパートリークラス	小ホール	12/11	1日	11	

※ 応募作品数

その他

愛公文セミナー	アートスペースA	8/30, 10/12, 11/15	3日	127	→11
職員の派遣／研修生の受け入れ	名古屋芸術大学 ほか	通年	―	―	

舞台芸術人材養成ラボ――実践実習プログラム

舞台芸術インターンシップ 企画制作コース 舞台技術コース 1年目

基礎知識から現場まで、まずは一通りを体験

舞台芸術を愛し、それらを支える仕事に就きたいと考えている大学生などを対象として、「舞台芸術インターンシップ」を今年度も実施した。その1年目では、全員が広報や舞台技術、フロント業務を含めた包括的な講座や演習等を受講。さらに「企画制作」「舞台技術」の2コースに分かれて当劇場の様々な事業の現場に入り、数多くの実習に参加した。その中にはプロデュース公演もあれば、ワークショップや戯曲賞の公開で行なう最終審査会などもあり、来場者の年齢層や関心度も幅が広いため、多様な対応が求められる。インターンは、講師となる劇場スタッフの指導のもと仲間とも協力しながら、多彩な現場を通じて基礎から実践までを学び、体験した。そうして、舞台芸術に関わるとはどういうことか、どういう能力が必要なのかを考え、舞台芸術の持つ力も再認識。舞台芸術への関わり方、劇場での働き方を、より現実的に捉えることができた。また、専門的業務の習得にとどまらず、個人の創造性や社会性を伸ばす一助ともなった。

日程:2018年6月～2019年3月
対象:舞台芸術に関わる仕事に興味を持つ大学生など
会場:愛知県芸術劇場小ホール ほか
講師:林 健次郎（愛知県芸術劇場チーフマネージャー）、藤井明子（同チーフマネージャー）、加藤 愛（同シニアプロデューサー）、世古口善徳（同シニアエンジニア）ほか、同劇場職員
参加者:4人

1年目2コース共通プログラム

- ◉オリエンテーション
- ◉講座「企画・制作の仕事」
- ◉講座「広報の仕事」
- ◉講座「舞台技術の仕事」
- ◉実習「舞台技術の基礎」
- ◉演習「ダンス・セレクション」広報概論
- ◉演習「ダンス・セレクション」広報企画立案
- ◉講座「愛知県芸術劇場の仕事について」
- ◉講座「舞台芸術に関わる仕事について」
- ◉講座「フロント業務の仕事」
- ◉演習「マーケティング基礎」

主な実習公演

1年目

- ◉「ダンス・セレクション」
- ◉ファミリー・プログラム「げきじょうたんけんツアー」
- ◉「えんげき de コミュニケーション」ほか

共 通

- ◉ダンスとラップ『ありか』
- ◉『忘れる日本人』
- ◉オペラ『バスティアンとバスティエンヌ』
- ◉「サウンドパフォーマンス・プラットフォーム2019」

2年目

- ◉カフェトーク ゲスト×観客で考える舞台の楽しみ方
- ◉ヌトミック『ワナビーエンド』
- ◉第18回AAF戯曲賞審査会
- ◉音から作る映画のパフォーマンス上映『サロメの娘／アクースモニウム』
- ◉ファミリー・プログラム『小さな島とエヴァ』
- ◉第17回AAF戯曲賞受賞記念公演『シティⅢ』 ほか

参加者の声（抜粋）

PR動画、アンケート用紙の作成は滅多に体験できない貴重な機会だった。特に「ダンス・セレクション」は事前から準備してきたので達成感があった。劇場で働くことのやりがいを感じ、もっと現場に関わりたいと思った。
（大学院生・女性）

より芸術分野で働くことを強く希望するようになった点と、芸術を通した教育活動に関われる仕事ができるようになれないかと考えるようになった点は、今回のインターンシップが強く影響している。
（大学生・女性）

舞台芸術人材養成ラボ――実践実習プログラム

舞台芸術インターンシップ 企画制作コース 舞台技術コース 2年目

学んだことを、繰り返し、身につける

舞台芸術インターンシップは、希望があれば2年目の継続も可能。1年目に学んだこと、体験したこと、感じたこと、考えたことを踏まえ、実践実習の現場にそれぞれが役割を持ってのぞめる。前年は無我夢中だったところがあっても、2年目はもう少しだけ落ち着いて考え、動けるようになり、責任感も増していく。また、参加者には報酬が支払われる。1年目より実習の対象事業が多く、幅広い業務に繰り返し取り組むことで、必要な知識や技術、心構えを身につけていくことができた。

日程:2018年6月～2019年3月
対象:舞台芸術インターンシップ1年目の受講修了者で、継続を希望する人
会場:愛知県芸術劇場小ホール ほか
講師:世古口善徳（愛知県芸術劇場シニアエンジニア）、藤井明子（同チーフマネージャー）、山本麦子（同プロデューサー）ほか、同劇場職員
参加者:3人

舞台芸術人材養成ラボ――職場体験プログラム

学生インターンシップ

将来の職場候補として劇場はいかがですか?

主に高校生以上の学生を対象に「学生インターンシップ」を実施。劇場の仕事に興味がある人たちが短期間で初心者向けのコースを体験した。学生インターンは、まず愛知県芸術劇場の施設や事業内容、運営、広報などに関する講義を聴講。その後、小学1～3年生が参加する「げきじょうたんけんツアー」の準備に加わり、ツアー当日の業務にも携わった。実践を含む流れの中で劇場の仕事を感覚的につかんだインターンたちは、自身の適性に気づくなど、それぞれの進路選択にも役立てていた。

日程:2018年7月30日～8月1日[3日間]
対象:愛知県・岐阜県・三重県に在住・在学、または実家などが同3県にある人で、舞台芸術やアートマネージメントに関心を持つ学生・生徒など
会場:愛知県芸術劇場コンサートホール／小ホール ほか
講師:丹羽康雄(愛知県芸術劇場館長)ほか、同劇場職員
参加者:23人

参加者の声(抜粋)

本番に向けて安全やスムーズな進行に気をつけるなど、スタッフのみなさんの様子を間近に見られたことは、とても勉強になりました。劇場のスタッフに限らず、人を楽しませる仕事がしたいという気持ちが高まりました。(高校生・女性)

終了後、お客さまの「ありがとう」という言葉を聞いて嬉しく感じました。中には保護者の方に自分の見たものを説明している子や、直接「楽しかった」と伝えてくれる子も。3日間通して教えていただいた"劇場で働くやりがい"が少しわかったように思いました。(高校生・男性)

舞台芸術人材養成ラボ――職場体験プログラム

舞台芸術お仕事ナビ

舞台芸術の仕事は、アレコレさまざま

そもそも舞台芸術に関わる仕事にはどんなものがあるのか、わからない、知りたいという学生たちに向けて、業界ガイダンスとなる「舞台芸術お仕事ナビ」を開催。中部圏で事業を行なっている関連業種の方々を講師に招き、それぞれの立場から舞台芸術に関わる仕事の魅力や面白さを紹介した。講師陣の職場は、劇場に限らず企画制作会社、テレビ局事業部、劇団、オーケストラほか多彩。小人数制で質問もしやすい環境でもあり、学生たちは広く社会を学ぶ場として大いに刺激を受けていた。

日程:2018年8月11日(2回)
対象:劇場や舞台芸術に仕事として関わりたいと考えている学生・生徒など
会場:愛知芸術文化センター アートスペースE・F
講師:柴田ちはる(名古屋市芸術創造センター)、大園美也子(東海テレビ放送株式会社事業局事業部)、髙橋正浩(ハンプトンジャパン株式会社)、吉見真悟(株式会社マネージメント・プロ)、笹森久美子／小菅 綾(金井大道具株式会社)、平松隆之(劇団うりんこ)、岩澤陽介(名古屋フィルハーモニー交響楽団演奏事業部)
参加者:42人

舞台芸術人材養成ラボ――技能習熟プログラム

劇場職員セミナー

全国の情報、意見、知恵が交換された3日間

愛知県芸術劇場と名古屋市文化振興事業団の共催で、3日間・19のテーマにわたる「劇場職員セミナー」を実施。全国からのべ700人以上の公立劇場職員が参加した。テーマは大きく「舞台技術・劇場運営」と「企画制作・広報」に分けられ、愛知芸術文化センター内の複数会場で同時展開。時間と場所を最大限に利用した。また、初日の講座終了後には交流会が行なわれる一方、2日目の朝にはナゴヤ文化の象徴である喫茶店を会場に「ナゴヤアーツのれん会」が発足。参加者たちはネットワークを広げたり、親睦を深めたりしながら、より率直に課題を相談しあい、情報・意見交換に励んだ。さらにリラックスした雰囲気の番外ゼミなども設けたことで、職員たちのリアルな声をすくいあげる場を生み出せた。

開催概要
日程:2019年1月16日～18日[3日間]
推奨対象者:全国の公立文化施設に勤める若手から中堅職員(3年以上勤務経験者)等
会場:愛知芸術文化センター アートスペース ほか　**参加者**:のべ754人

連携プロジェクト

1/16

基調講演「地方文化芸術推進基本計画を具体的に考える」

講師:片山泰輔(静岡文化芸術大学教授)

自治体文化政策の歴史、文化芸術基本法策定の背景、劇場法の意義を下敷きに、地方文化芸術推進基本計画に盛り込むべき政策の骨格、また、策定における劇場の役割、劇場が提示すべきエビデンスや取組みが紹介された。

講座「これができたらハンパないって! ～プロジェクターの基礎講座～」

講師:後藤克規(パナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社中部社)
サポート:長谷川 亘(名古屋市文化振興事業団文化振興部総務課)

メーカーによるプロジェクターの基礎的な知識や取扱い、注意点などの講義や実習を行なった。グループごとで、設定された部屋でプロジェクターを設置するためにはどの程度の機種が適当かなどを検討する場面もあり、にぎやかなセミナーとなった。

講座「これがわかったらハンパないって! ～便利かリスクか? 音響・照明機器の遠隔操作～」

講師:亀本和利／岡崎汐里(株式会社ヤマハミュージックジャパン)、本堂武志(東芝ライテック株式会社)
サポート:大矢英和(名古屋市民ギャラリー栄・東山荘館長)、河原裕輝(名古屋市西文化小劇場館長)

音響・照明の各講師による有線・無線ネットワークの現状と将来についての講義を実施。どのメーカーもリスクの軽減に力を入れていることが理解できた。今後、改修を予定する施設にとって参考となる内容でもあり、Q&Aも活発に行なわれた。

舞台芸術人材養成ラボ――技能習熟プログラム

劇場職員セミナー

パネルディスカッション「学校が劇場に求めていること」

パネリスト:田中佳代子（蒲郡市立形原北小学校校長）、齊藤 豊（東京学芸大学付属世田谷小学校教諭）、生田 創（長久手市文化の家 事務局長補佐兼事業係長）
コーディネーター:梶田美香（名古屋芸術大学教授）

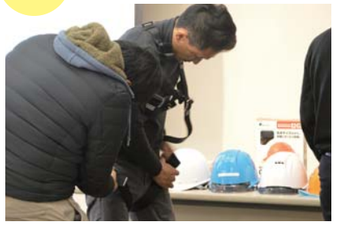
小学校教諭、劇場職員、研究者がそれぞれの立場で、学校教育と芸術の関わりについてディスカッションした。学校における音楽科の位置づけやアウトリーチへの教師の期待、劇場およびアーティストに求められる要素などが具体的に示された。

事例研究と質疑応答「広報なんでも相談室」

パネリスト:宮形佳考（NHK名古屋放送局 広報・事業部）、森 隆一郎（渚と/nagisato 主宰）、吉兼恵利（久留米市市民文化部 久留米シティプラザ事業制作課専門チーフ）、山川愛（かすがい市民文化財団 広報コミュニケーショングループ兼総務グループマネージャー）
コーディネーター:林 健次郎（愛知県芸術劇場 企画制作部長代理兼広報・マーケティンググループチーフマネージャー）

インターネットサービスの「Sli·do」を利用し、チャット形式で会場からの質問を匿名で集めたり、簡単なアンケートを行ないながら、広報についてのさまざまな質問・相談・意見に各パネリストがそれぞれの視点から回答した。

1/17



講座「安全の大事さはハンパないって! ～ヘルメットと墜落制止用器具で労働災害防止～」

講師:廣島孝英（株式会社谷沢製作所）
サポート:神田輝生（名古屋市守山文化小劇場館長）

ヘルメットと墜落制止用器具の取扱い方法や法改正について講義を行なった後に、装着体験も実施。今後、フルハーネス型墜落制止用器具が必要となる劇場にとっては、どのように運用していくか課題を再認識する貴重な機会となった。

パネルディスカッション「トラブルに挑む!（舞台編）～事例から学ぶ舞台のトラブル対応～」

パネリスト:櫻井拓朗（新国立劇場 技術部舞台課課長）、関谷潔司（兵庫県立芸術文化センター舞台技術部長）、丹羽 功（名古屋市芸術創造センター館長）
司会:浅野芳夫（愛知県芸術劇場 劇場運営部長）

新国立劇場、兵庫県立芸術文化センター、名古屋市芸術創造センターの舞台運営時に発生したトラブル事例を基に、劇場の規模やトラブルの大小を問わず、慌てず技術者の知恵を絞れば、ピンチは乗り切れるということを学んだ。

実習「テキストライティング」

講師:米田 環（尾張中央タイムズ編集長）

文章作成の基本を、例文を解きながら、おさらいした上で、読者を惹きつける文章を書くためのテクニックを具体的に学んだ。また、アーティストの紹介文やプレスリリースを書くなど、実践的なワークにも取り組んだ。

パネルディスカッション「チラシのテキストをデザインする」

パネリスト:中尾友彰（りゅーとぴあ事業企画部 音楽企画課）、大西絵里加（かすがい市民文化財団 広報コミュニケーショングループ）、小出充訓（愛知県芸術劇場 広報・マーケティンググループ）
コーディネーター:森 隆一郎（渚と/nagisato 主宰）

チラシ作成における成功・失敗事例をもとに、チラシ作成前の下準備の大切さを再確認した。また、言葉遣いのレギュレーションやコピーの推敲プロセス、校正ルールなど、各劇場の苦労や工夫が紹介された。

ご当地らしくモーニングで
交流はじめ!

第1回ナゴヤアーツのれん会

主宰:森 隆一郎（渚と/nagisato主宰）

コーヒーとノンテーマの文化雑談会。早朝から、スターバックス・コーヒー栄公園オアシス21店にて、全国各地から集まった劇場職員が自己紹介や意見交換した。劇場間ネットワークの構築から来場者アンケートの手法まで、話題は多岐にわたった。

※今回は特別に場所をご提供いただきました。

講座「大規模改修に挑む! ～事例から学ぶ改修工事～」

講師:浅野芳夫（愛知県芸術劇場 劇場運営部長）

愛知県芸術劇場の改修が終了した小ホール、コンサートホール、まさに改修中の大ホールの改修事例を用い、改修工事に対する考え方や、改修工事を実施するうえで注意したい事項についてアドバイスする一方、グループワークを通じて出た質問を受講者と共に考えた。

講義「劇場でのワークショップの目的・やり方を見つめ直す」

講師:苅宿俊文（青山学院大学教授）

ワークショップの目的・効果、とりわけ学校教育との関連性を確認することから始まり、参加者に合わせて柔軟な対応をしながら、劇場ができることをどうやって進めていくか、具体的なグループワークも含め、充実した講義内容となった。

実習「すべての人が参加できる鑑賞環境づくり～肢体、視覚に障がいをもつお客様対応」

講師:名古屋市身体障害者福祉連合会

視覚に障がいをもつお客さまや車椅子をご利用のお客さまにどのように対応するか、当事者の方のリアルな意見・感想を聞いたうえで、案内方法を実習した。講座の時間が限られていたため、詳しい資料は実習の後で配布され、実習参加者自身が対応を復習した。

講座「障がい×パフォーミングアーツの可能性～企画制作はじめの一歩」

講師:髙島康貴（愛Wishプロジェクト代表）、河合依子（岐阜ろう劇団「いぶき」代表）、吉野さつき（愛知大学文学部教授）

障がい者の舞台芸術活動における現状のレクチャーの後、舞台制作と、ろう劇団代表による各々の事例について発表が行なわれた。その後、事例から考えられる課題や疑問点について、先進事例や活動実績をもとに意見を交換した。

舞台芸術人材養成ラボ――技能習熟プログラム

劇場職員セミナー

1/18

パネルディスカッション「トラブルに挑む!（運営編）～事例から学ぶ貸館・設備トラブル～」

パネリスト:安田賢司（三重県総合文化センター総務課長）、富田顕生（愛知県芸術劇場支配人）
コーディネーター:浅野芳夫（愛知県芸術劇場 劇場運営部長）

愛知県芸術劇場、三重県総合文化センターで発生したトラブルの、小さな事例から大規模な事例までの対応を聞き、その後、グループワークで出たトラブルや劇場運営に対する質問1つ1つを講師らと共に考えた。

講座「未就学児を対象とした事業の基本ともうひと工夫」

講師:吉野さつき（愛知大学文学部教授）、岡林和歌（クラリネット奏者）、杉本隆之（名古屋市熱田文化小劇場館長）

未就学児を対象とした事業をより良くするため、劇場・アーティストがそれぞれの立場で、できることを事例を踏まえて参加者と共有した。また、多国籍・障がいの有無等についても考える機会となり、参加者からは意見や質問が活発に出され、関心の高さが伺われた。

講演「お客様は神様か」

講師:吉永公平（弁護士）

来場者からの要望が複雑化・困難化する昨今、その対応で疲弊していく職員も多いため、春日井市役所に勤める法律の専門家から話を伺うことで、長時間対応の見直しや毅然とした態度の重要性などを再確認。参加者それぞれが今後に向けて貴重なヒントを得た。

1/17 番外ゼミ

大好評につき再演!「トラブルに沈む… ～事例から笑う覆面トーク～」

ゲスト:アフロマン、クーテシガーナ、ロックマン、ネオキャットマン
司会:ライオンマン

謎のパネリスト5名による、やらかした事例発表に、会場はそこそこの笑いであったが、謎のパネリストたちはもっと笑ってもらえたはずと反省し、リベンジ再演を勝手に誓い帰っていった。技術者の日頃の緊張感、責任感も受講者に伝える場となった。

「劇場職員と子育て」

進行:藤井明子（愛知県芸術劇場　企画制作グループ　チーフマネージャー／高・中・小学生のママ）

車座になって子育て体験から、苦労しているところや工夫しているところをおしゃべりする場に。共感とちょっとしたストレス発散と、頑張っている先輩の姿を知って何とかなるもんだと思う安心感を共有できる場となった。

参加者の声（抜粋）

どこの劇場でも持っている悩みは似たようなものだとわかり、励まされました。「その悩みをどうやって解決するか?」という点は地域それぞれだと思いますが、真似できるところはたくさんあったので、1回で結果を求めず、粘り強く周囲を説得していこうと思います。

基調講演は、導入あたりで難しく感じましたが、お話を聞いていくうちにとてもわかりやすくスーッと頭に入りました。国の動きを知ることができて、これからの文化活動にモチベーションが上がりました。

わかりやすく、丁寧にレクチャーしていただく講座ばかりで、たいへん参考になりました。職場に戻ってスタッフにフィードバックしていきたいと思います。

参考になる講座が多くて受講を決めるのに悩み、時間が重なる講座の中には両方参加したいものもありました。先進事例ばかりでなく身近な課題を取り上げていただき、他施設との情報交換も数多く行なうことができました。ぜひ今後も継続していただけたらと思います。

普段関わっているワークショップや障がいのある方への対応について知ることができました。ただ、ワークショップの講座が学校連携（アウトリーチ）が中心だったので、劇場で行なうワークショップについても知りたいと思いました。

「未就学児を対象とした事業の基本ともうひと工夫」での吉野先生のお話には、芸術を広くみんなのものにするにはどうしたら良いかという熱意を感じました。これからの芸術文化の発展・浸透のために、どう取り組む必要があるかを考えることのできた3日間でした。

【 関連セミナー 】 連携プロジェクト

愛公文セミナー

愛知県公立文化施設協議会と愛知県芸術劇場は、県内の新任劇場職員を対象に3回のセミナーを開催。ハード、ソフトの両面で劇場職員が知っておくべきことを講義した。受講者は具体的な事例やディスカッションを通じ、実感を持って課題を把握。気づきや解決策を持ち帰った。

日程:2018年8月30日・10月12日・11月15日
対象:愛知県公立文化施設協議会加盟館の新規採用職員、及び、異動により劇場勤務となった職員等
会場:愛知芸術文化センター アートスペースA
参加者:127人

連携プロジェクト

職員の派遣／研修生の受け入れ

愛知県芸術劇場は、近隣の劇場や公益財団法人、芸術系大学などを対象に「職員の派遣」「研修生の受け入れ」を実施。地域全体の文化向上に努めている。

日程:通年
対象:近隣の劇場や公益財団法人、芸術系大学など

[2018年度実績]

職員の派遣

（一財）貝塚市文化振興事業団、（一財）こまき市民文化財団、（一財）岐阜市公共ホール管理財団、（一社）岡崎パブリックサービス、（公財）堺市文化振興財団、（公財）全国公立文化施設協会、全国舞踊コンクール、東海市、豊川市、豊中市立文化芸術センター、長久手市、名古屋芸術大学、西尾市

研修生の受け入れ

◎名古屋芸術大学芸術学部芸術学科音楽領域アートマネージメントコース「芸術と文化」専攻の学生が、アートマネージメント（劇場運営・企画・広報）の講義を受講
◎公益財団法人 堺市文化振興財団の職員が、広報・マーケティンググループの実務を視察

名古屋芸術大学の学生を対象とした特別講義

舞台芸術人材養成ラボ——創造制作プログラム

舞台芸術創造セミナー

もはや舞台芸術にも欠くことのできない映像技術の最先端を、知って学ぶ

舞台芸術において、映像を取り込んだ趨向や演出は確実に増えている。アーティストや制作担当者が知っておくべき舞台技術を紹介する「舞台芸術創造セミナー」では、「舞台芸術における映像　マルチプルな映像の手法」と題してレクチャーとワークショップを開催した。まず、レクチャーにはオーストラリアから来日中の振付家・映像作家のスー・ヒーリー、彼女の信頼する撮影監督ジャッド・オヴェルトンが登壇。世界的に展開される彼女たちのプロジェクト『ON VIEW』を例に、ダンスと映像の新しい可能性を解説した。レクチャーの中では日本公演の制作発表も行ない、出演ダンサー5人がデモンストレーションを披露。聴講者は驚きと喜びにあふれていた。一方のワークショップでは、映像を活用したパフォーマンスやインスタレーションを手掛けてきた映像作家・演出家の伏木啓、美術家の井垣理史が講師として来場。より効果的な映像の舞台制作手法について講義しながら、参加者とともに具体的な実験を試みた。

レクチャーとデモンストレーションの様子

ワークショップの様子

「舞台芸術における映像　マルチプルな映像の手法」

〈レクチャー〉
日程:2018年9月16日
会場:愛知芸術文化センター アートスペースA
講師:スー・ヒーリー（振付家・映像作家）、
　　ジャッド・オヴェルトン（撮影監督）
参加者:62人

〈ワークショップ〉
日程:2019年2月26日・27日
会場:愛知県芸術劇場小ホール
講師:伏木啓（映像作家・演出家）／井垣理史（美術家）
参加者:20人

セミナーで公演の制作発表!

日本×香港×オーストラリア
国際共同製作プロジェクト
『ON VIEW: Panorama』
2020年2月7日～9日
愛知県芸術劇場小ホールにて公演予定

左からハラサオリ、湯浅永麻、小尻健太、
ショーナ・エルスキン、スー・ヒーリー、浅井信好、白河直子

レクチャーの講師を務めたスー・ヒーリーは、日本×香港×オーストラリアによる国際共同製作プロジェクト『ON VIEW:Panorama』を行なうと発表した。『ON VIEW』は、カメラで撮影したダンスを、オンライン・ストリーミング、ビデオ・インスタレーション、ライブ・パフォーマンス（舞台公演）、3つの形態で表現する企画。映像作品には日本からはハラサオリ、湯浅永麻、小尻健太、浅井信好、白河直子ら国内外で活躍する気鋭ダンサーが出演。ライブでは通常観ることのできない角度から身体に迫るなど、ダンスと鑑賞者の新しい関係性も示される。

舞台芸術人材養成ラボ——普及啓発人材プログラム／アーティスト人材養成事業

舞台芸術ワークショップのファシリテーター&コーディネーター人材養成講座～広場ラボ

舞台芸術が多様な社会の懸け橋となるために

舞台芸術をより多くの人に開き、共有していく方法のひとつに、ワークショップの有効活用がある。舞台芸術を「観る」だけでも「創る」だけでもなく体験することで、また違った人と人とのつながりが生まれ、多様性を極める現代社会の新たな懸け橋ともなり得るだろう。ただし、そのためには優れたワークショップを企画できる人材が必要だ。「舞台芸術ワークショップのファシリテーター&コーディネーター人材養成講座～広場ラボ」では、理論と実践を学ぶことで、将来的に舞台芸術ワークショップの開発・実践を行なえる担い手を育てていく。今年度は、ワークショップコーディネーターとして全国各地でアーティストと地域を繋ぐ活動をしている吉野さつき、劇団山の手事情社の俳優・演出家である倉品淳子が講義。二人は日頃から親交があり、なごやかな空気の中、実践・交流の場としても参加者に刺激やヒントを与えることができた。

日程:2019年1月26日
対象:俳優・ダンサー・音楽家などの舞台芸術のアーティスト、舞台芸術・福祉・教育などの現場に勤務している人、舞台芸術を使って、人と人とをつなぎたい人
会場:愛知芸術文化センター アートスペースA
講師:吉野さつき（ワークショップコーディネーター・愛知大学文学部教授）、倉品淳子（俳優・演出家）
参加者:26人

アーティスト人材養成事業

ダンス、音楽、演劇……次代を担う表現者たちにプロの薫陶

今年度は、優れた表現者を育てるアーティスト人材養成事業にもいっそう力を注いだ。AAF戯曲賞の関連企画では、審査員や審査形式を一新して以降の受賞者4人を迎えて座談会を開催。各自の近況を報告しながら、劇作家や戯曲を取り巻く問題を考察した。また、振付家・ダンサー養成プログラムを精力的に展開。国内外で活躍する舞踊家を招いた多彩なワークショップで、地元を中心とする若手たちがプロの薫陶を受けた。さらに愛知県芸術劇場が擁する合唱団や、新しくスタートしたオルガニストの育成など、連続した指導の場を充実。パフォーミングアーツ全体に拡大し、養成に取り組んだ。

最終審査会の様子

AAF戯曲賞・受賞作家座談会
「作家にとって上演とは?」の様子

左から愛知県文化振興事業団理事長・菅沼綾子、鳴海康平、羊屋白玉、渡辺鈴、山内晶、篠田千明、やなぎみわ、三浦基

第18回AAF戯曲賞 募集・選考・最終審査会

2000年に創設されたAAF戯曲賞は、愛知県芸術劇場の人材養成の中でも最も回数を重ねてきた事業のひとつ。劇作家の新星を発掘するだけでなく、戯曲を文化的財産と考え、受賞作の上演を経て未来につないでいくことを掲げている。今年度は、パフォーミングアーツにも意欲的な現代美術家・やなぎみわが審査員に加入。公開形式による最終審査会も白熱して約5時間半にも及んだ結果、大賞は山内晶（キリグス主宰／東京）『朽ちた蔓延る』に決定。また、特別賞に地元・南山高校女子部演劇部の渡辺 鈴（愛知）『by us』が選出された。

作品募集:2018年6月～7月
最終審査会:2019年1月6日
審査員:篠田千明、鳴海康平、羊屋白玉、三浦基、やなぎみわ
最終審査会場:愛知県芸術劇場小ホール
参加者:109人　※ 作品応募数

愛知県芸術劇場合唱団 フランス語ディクション訓練

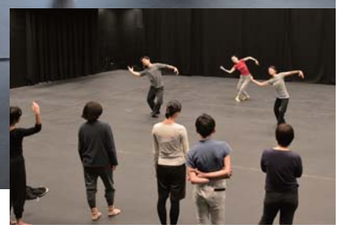
愛知県芸術劇場では、当劇場のプロデュースオペラやコンサートなどに出演する合唱団を擁し、折々にオーディション、指導を行なってきた。この合唱団はソリストも輩出しており、地元声楽家の育成にも貢献している。今年度は、東京二期会等との共同制作で2019年11月に公演予定のオペラ『カルメン』出演を想定して、フランス語ディクションの訓練を実施。同公演の合唱指揮を務める大島義彰を講師に迎え、全3回の訓練の場を設けた。

日程:2019年1月14日・2月10日・3月3日［3日間］
講師:大島義彰
会場:愛知芸術文化センター アートスペースA
参加者:43人

集まれ、未来のオルガニスト

今年度は愛知県芸術劇場オルガニストを新設、都築由理江が着任したことに伴い、オルガニスト養成事業を始動させた。対象は中学生から25歳以下の若手で、ピアノや電子オルガンなど鍵盤楽器を5年以上経験していれば受講できる。オリエンテーションとレッスン3回の全4回で、学生から社会人まで幅広い層が受講。次代の人材養成は急務だが、長期的視点にも立って継続していく。

日程:2019年1月5日・1月20日・2月1日・2月14日・3月10日・3月13日・3月27日
講師:都築由理江
会場:愛知県芸術劇場コンサートホール
参加者:6人



岡登志子ダンス・ワークショップ in 愛知

ドイツのNRW州立Folkwang芸術大学舞踊科で学び、神戸を本拠地に活動する岡登志子（アンサンブル・ゾネ主宰）を講師に迎えたワークショップでは、ドイツ表現主義舞踊の権威として知られるクルト・ヨースの理念に基づくダンスメソッドを実践した。身体と空間の関係を重視しながら、身体の中心や軸、重力、呼吸を実感することで、その表現の可能性を模索した。『緑のテーブル2017』公演の関連企画として実施。

日程:2018年4月5日
会場:愛知県芸術劇場小ホール　**参加者**:10人

フォーサイスのメソッドに基づくコンテンポラリー・ダンス・ワークショップ

連携プロジェクト

りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館専属舞踊団「Noism」を経て、2006～2015年、フランクフルトのザ・フォーサイス・カンパニーに所属し、メインパートを踊ってきた島地保武を迎え、ワークショップを開講。最先端のダンスを切り拓いてきたフォーサイスのメソッドを体験した。ダンスとラップ 島地保武×環ROY『ありか』公演の関連企画として実施。

日程:2018年6月16日・17日
講師:島地保武
会場:黄金4422BLDG.　**参加者**:12人

黄金4422BLDG.のエントランス

ダンス・セレクション「踊る」「語る」「集う」

連携プロジェクト

民間の「黄金4422BLDG.」と連携してダンス・セレクションを開催。同ビルと愛知県芸術劇場の2会場で4日間にわたり、ワークショップ、トークイベント、交流会などを展開した。ダンス・セレクションでは第一線の講師と若手ダンサーたちがフラットな雰囲気の中でダンスシーンの未来を考えるなど、思い思いの取り組みを見せた。

日程:2018年10月5日～8日［4日間］
講師:オトリヨセ企画、康本雅子、小倉 笑、白井 剛、ブッシュマン、松田尚子（+81）、柳本雅寛（+81）、小暮香帆、乗越たかお、唐津絵理
会場:愛知県芸術劇場小ホール／黄金4422BLDG.
参加者:151人

黄金4422BLDG.

浅井信好が名古屋市中村区にオープンさせたホールとスタジオ、宿泊することもできる5階建てのコンテンポラリーダンスのためのプラットフォーム。

振付家・ダンサー養成プログラム

湯浅永麻によるインプロビゼーションクラス

NDT（ネザーランド・ダンス・シアター）に11年間在籍した後、フリーとなってマッツ・エックほかの振付作に出演し、現在はOpto（日本）、EASTMAN（ベルギー）のメンバーとしても活躍する湯浅永麻を迎え、インプロビゼーションのワークショップを開いた。まず既存のムーブメントを学び、それをどう変化させられるか、即興を交えて実践。受講者は振付家との作品づくりに必要な精神性にも触れた。Opto『optofile_touch』公演の関連企画として実施。

日程:2018年12月10日
会場:愛知県芸術劇場小ホール
参加者:4人

小尻健太によるクリスタル・パイトのレパートリークラス

元NDT（ネザーランド・ダンス・シアター）のダンサーで、渡辺レイらとOptoを主宰する小尻健太を迎え、世界で最も熱い視線を集める振付家のひとり、クリスタル・パイトの作品『The Other You』マスタークラスを開講。受講者は、演劇的なジェスチャーからインスパイアされたコンビネーションや、ベートーヴェン『月光』に合わせたムーブメントシークエンスに挑戦。小尻のオリジナルウォームアップも興味深く、刺激あふれる場を提供できた。前述の湯浅永麻と同様、Opto『optofile_touch』公演の関連企画。

日程:2018年12月11日
会場:愛知県芸術劇場小ホール
参加者:11人

Play Music Dance